

## 解析学 II 演習 3 解答

**解答 3.1.**  $\mathbb{Z}_{\geq 0} = \{n \in \mathbb{Z} | n \geq 0\}$  とおく.  $n = 0, 1, \dots, m = 0, 1, \dots, 2^{n-1}$  に対して,  $A_{2^n+m} = [m/2^n, (m+1)/2^n]$  とし,  $f_k = \chi_{A_k}$  ( $k \in \mathbb{Z}_{\geq 0}$ ) とする.  $k \in \mathbb{N}$  に対して,  $k = 2^n + m$  となる  $(n, m) = (n(k), m(k)) \in \mathbb{Z}_{\geq 0} \times \{0, 1, \dots, 2^{n-1}\}$  は一意に定まることに注意すると,

$$\|f\|_p = \left( \int_0^1 \chi_{A_k}(x) dx \right)^{1/p} = 2^{-pn} \rightarrow 0, \quad k \rightarrow \infty.$$

即ち,  $f_k \rightarrow 0$  in  $L^p$  であるから,  $\{f_k\}$  は  $L^p([0, 1])$  上の Cauchy 列である.

一方, 任意の  $x \in [0, 1], n \in \mathbb{N}$  に対して

$$m2^{-n} \leq x < (m+1)2^{-n}$$

を満たす  $m = m(x, n) \in \{0, 1, \dots, 2^{n-1}\}$  は一意に定まり,  $x \in A_{2^n+m}$  である. また,  $l \neq m(x, n)$  のとき  $x \notin A_{2^n+l}$  である. 故に,  $\{f_k(x)\}$  の集積点は  $\{0, 1\}$  であり,  $\{f_k(x)\}$  は収束しない.

**解答 3.2.**

(1) 反例が存在する. 実際,

$$f(x) = \begin{cases} x^{-1/2} & x \in (0, 1), \\ 0 & x \in (-\infty, 0] \cup [1, +\infty) \end{cases}$$

とすると

$$\int_{\mathbb{R}} |f(x)| dm_1 = \int_0^1 x^{-1/2} dm_1 = 2,$$

$$\int_{\mathbb{R}} |f(x)|^2 dm_1 = \int_0^1 x^{-1} dm_1 = \infty$$

となるので  $f \in L^1(\mathbb{R}, m_1)$  かつ  $f \notin L^2(\mathbb{R}, m_1)$ .

(2) 反例が存在する. 実際,

$$g(x) = \begin{cases} x^{-1} & x \in (1, +\infty), \\ 0 & x \in (-\infty, 1] \end{cases}$$

とすると

$$\int_{\mathbb{R}} |g(x)| dm_1 = \int_1^{\infty} x^{-1} dm_1 = \infty,$$

$$\int_{\mathbb{R}} |g(x)|^2 dm_1 = \int_1^{\infty} x^{-2} dm_1 = 1$$

となるので  $g \in L^2(\mathbb{R}, m_1)$  かつ  $g \notin L^1(\mathbb{R}, m_1)$ .

**解答 3.3.**

(1)  $f \in L^p(X)$  とし,  $f = f_+ - f_-$ ,  $f_+ = \max(f, 0)$ ,  $f_- = -\min(f, 0)$  と分ける.  $f_{\pm}$  は非負値可

測関数なので,  $s_{\pm,n} \nearrow f_{\pm}$  を満たす  $\mu$ -可測な非負値単関数列  $\{s_{\pm,n}\}$  が存在する.  $s_{\pm,n} \leq f_{\pm}$  及び  $f \in L^p(X)$  なので,  $s_{\pm,n}$  は可積分である. 実際,

$$s_{\pm,n} = \sum_{k=1}^{N(n)} a_k^{(n)} \chi_{A_k^{(n)}}, \quad a_k^{(n)} \in \mathbb{R}_{>0}, \quad A_k^{(n)} \in \mathcal{M}, \quad k = 1, \dots, N(n)$$

と置くと, 各  $x \in X$  に対して

$$s_{\pm,n}^p(x) = \sum_{k=1}^{N(n)} (a_k^{(n)})^p \chi_{A_k^{(n)}}(x) \leq f_{\pm}^p(x).$$

$f \in L^p(X)$  なので,  $f_{\pm} \in L^p(X)$  であり,  $s_{\pm,n}^p \in L^1(X)$ . 従って,

$$\mu(A_k^{(n)}) < \infty, \quad k = 1, \dots, N(n).$$

故に,  $s_{\pm,n}$  は可積分である.

$|s_{\pm,n} - f_{\pm}|^p \leq f_{\pm}^p$  なので, Lebesgue の収束定理より  $s_{\pm,n} \rightarrow f_{\pm}$  in  $L^p(X)$ . よって,  $s_n := s_{+,n} - s_{-,n} \rightarrow f_+ - f_- = f$  in  $L^p(X)$  である. また,  $\{s_n\} \subset S$  であるから,  $S$  は  $L^p(X)$  において稠密である.

(2)  $S = \{f \mid f \text{ は } \mu\text{-可積分単関数}\}$  とおき,  $S \subset L^p(X) \cap L^q(X)$  を示せば,  $1 \leq p < \infty$  なので (1) により  $L^p(X) \cap L^q(X)$  は  $L^p(X)$  において稠密であることが従う.  $s \in S$  とし,

$$s = \sum_{k=1}^N a_k \chi_{A_k}, \quad a_k \in \mathbb{R} \setminus \{0\}, \quad A_k \in \mathcal{M}$$

とおく.  $s \in S$  より,  $\mu(A_k) < \infty, k = 1, \dots, N. q < \infty$  のとき,

$$\|s\|_q = \left( \int_X \sum_{k=1}^N |a_k|^q \chi_{A_k}(x) dx \right)^{1/q} \leq \sum_{k=1}^N |a_k| \mu(A_k)^{1/q} < \infty.$$

$q = \infty$  のとき,

$$\|s\|_{\infty} = \max_{1 \leq k \leq N} |a_k| < \infty.$$

故に,  $q \in [1, \infty]$  に対して  $s \in L^p(X) \cap L^q(X)$ . よって,  $L^p(X) \cap L^q(X)$  は  $L^p(X)$  において稠密である.

### 解答 3.4.

(1) 主張の不等式を示せばよい.

・  $p_2 < +\infty$  のとき, Hölder の不等式を用いれば

$$\begin{aligned} \|f\|_{p_1}^{p_1} &= \|\chi_X \cdot |f|^{p_1}\|_1 \\ &\leq \|\chi_X\|_{p_2/(p_2-p_1)} \| |f|^{p_1} \|_{p_2/p_1} \\ &= \mu(X)^{(p_2-p_1)/p_2} \|f\|_{p_2}^{p_1} \end{aligned}$$

より求めるものが得られる.

・  $p_2 = +\infty$  のとき,

$$\begin{aligned}\|f\|_{p_1}^{p_1} &= \int_X |f(x)|^{p_1} d\mu \\ &\leq \int_X d\mu \|f\|_{\infty}^{p_1} \\ &= \mu(X) \|f\|_{\infty}^{p_1}\end{aligned}$$

より求めるものが得られる.

(2) 以下簡単のために  $L^p = L^p(X, \mu)$  と書く.

・  $\mu(X) < +\infty$  とすると (1) より  $L^p \cap L^\infty = L^\infty$  なので  $L^p \cap L^\infty$  は  $L^\infty$  で稠密.

・  $\mu(X) = +\infty$  とすると  $L^p \cap L^\infty$  は  $L^\infty$  で稠密でないことを示す. もし稠密であるとすると  $\chi_X \in L^\infty$  なので

$$\|\chi_X - f\|_{\infty} < 1/2$$

なる  $f \in L^p \cap L^\infty$  が存在する.  $f$  の取り方より  $Y = \{x \in X; |\chi_X(x) - f(x)| \leq 1/2\}$  とすると  $\mu(Y) = +\infty$ . また  $x \in Y$  に対して  $f(x) \geq 1/2$ . これらより

$$\int_X |f(x)|^p d\mu \geq \int_Y |f(x)|^p d\mu \geq \frac{1}{2^p} \mu(Y) = +\infty$$

となるがこれは  $f \in L^p$  に矛盾. 従って  $L^p \cap L^\infty$  は  $L^\infty$  で稠密でない.

### 問題

$(X, \mathcal{M}, \mu)$  を測度空間であって

- $\mu(X) < +\infty$ ,
- 任意の  $x \in X$  に対して  $\{x\} \in \mathcal{M}$  であって  $\mu(\{x\}) = 0$

を満たすものとする. このとき  $X_1, \dots, X_n \in \mathcal{M}$  で

- $X = \bigcup_{j=1}^n X_j$ ,
- $\mu(X_j) \leq \frac{1}{2} \mu(X)$

を満たすものは存在するか否か?

### 解答

存在しない. 実際  $X = [0, 1]$  とし,  $\mathcal{M}$  を  $\emptyset, X, X$  の部分集合で高々可算なもの, そして補集合が高々可算なものからなるものとする. また  $\mu$  を  $A \subset X$  が高々可算なら  $\mu(A) = 0, X \setminus A$  が高々可算なら  $\mu(A) = 1$  とすればこれは反例となる.